

# 命の次に『お金』が大切だと公言する社長は恥じて去れ!

「命の次に大切な物は、お金でしょ?」「そのお金を儲けることがないのか?」と記者に向かって公然と言っていた傲慢な言葉でした。

汗水を流してきちんと働いてお金を稼ぐの悪いと思う人は誰もいない。お金を儲けるのに、手段を選ばず社会

長引いた平成不況の混乱の中で、多少なりとも明るい話題を盛り上げてきたのがIT関連企業だった。また、それらの会社の経営者が住んでいるヒルズ族の生活などというものは、庶民の感覚ではまるで別世界の出来事であって、本当に景気が回復したなどは誰も感じていない。

過日、投資ファンド会社の社長が、証券取引法・六七条違反(インサイダー取引)で逮捕されたM&A(企業の合併や買収)の絡みでインサイダー取引があったというのだ。

そのマナー知らずの行動は、投資経験のない庶民の目から見ても、余りにも横暴で自己中心的な悪方キのような振る舞いであると思える人が多かった。

逮捕直前の記者会見の席で:

「お金を儲けることがないのか?」「こんなに儲かって良いのかと思うほど儲かった!」と誇らしげに記者たちに豪語していた。

また、特に経営者としてあるまじき愚かさを露呈したのは:

## ●玩物喪志の経営者は消える

昔から「ローマは一日にして成らず」と云う言葉は親からも良く聴かされた。小学生の子供に向かって「ローマは」と云われたのが本音でした。でも、今になって思えば、どうやら生きることに不器用そうな子供を見て、「それでいいんだよ!」と云っていたのではないかと思う節がある。

大器遅満とは「大きな器に水を注ぎ、その器が満杯にするまでに時間がかかるものだ!」と云うことばの通り、僅か数年間で数百億円、数千億円のお金を儲けようという考え方で事業を展開している

「玩物喪志」(物を遊び志を喪う)と云う言葉があります。

その言葉は:物がお金であり、玩ぶとは溺れることを意味するというから「お金の溺れて大切な志を喪うこと」と理解することもできるだろう。

「玩物喪志」(物を遊び志を喪う)と云う言葉があります。

その言葉は:物がお金であり、玩ぶとは溺れることを意味するというから「お金の溺れて大切な志を喪うこと」と理解することもできるだろう。

## ●業の寵児へと急ぐより 大器遅満の経営者であれ

記者会見の席で「命の次に大切な物は、お金でしょ?」と公言する経営者に憤りを感じ、その言葉が耳から離れなかつた日から早くも三週間経った。

積放された社長の言葉は「大口のご迷惑をお掛けした投資家の皆様に対し陳謝行脚をする!」とのことだ。

「社会を騒がせし多大なるご迷惑をお掛けした善良なる人々に陳謝する!」と云うのではなく、共に暴利を貪っていた臙魅臙魅の仲間たちに陳謝してまわると

人を見て、私にはそれはまともな経営者であるとは思えない。

大きなお金に群がる臙魅臙魅の世界に入り、善人々を巧みに利用し、多くの利をむさぼり喜んでいる人の姿を見ても、自分の行為を正義と勘違いしているのでは無いだろうか。

臙魅と云う言葉は「臙(ち)」「虎の形を山神で、山林の異気から生ずる怪物。山の神。」とある。

精. 木石の怪...とある。

一見、聖人のような姿をした:実は妖怪である聖人たちが、餌の臭いを嗅ぎつけて夜な夜な集まってくる。妖怪たちは牙をむき出し口の周りを血だらけにして食うだけ食うと:口を拭いて、また知らん顔して元の聖人もどきの姿に戻っていく。そんな経営者が世の中に罷り通っているのだろうか。

今や、日本を代表する自動車メーカーや電機メーカーなどの今日までの足跡を辿ってみても、コソコソと地道に小さな失敗と成功を繰り返しながら、少しずつ実績を積み重ねてきていく世界に羽ばたいた企業に成長してきているのである。

とは、臙魅臙魅たちの誰かと手を組めるようになることではないはずだ。

山岳登山で目にするケルンのように、その人の器に合うようないくつかの目標を定め、毎日毎日心を込めて小さく積み上げていく事業の実績が、やがて人の目に留まるようになることを「チャンスをつかむ」と云うことなのではないだろうか。

## ●経営者に望む...心の通うM&A

「命の次に大切な物は、お金でしょ?」と公言する経営者に憤りを感じ、その言葉が耳から離れなかつた日から早くも三週間経った。

積放された社長の言葉は「大口のご迷惑をお掛けした投資家の皆様に対し陳謝行脚をする!」とのことだ。

「社会を騒がせし多大なるご迷惑をお掛けした善良なる人々に陳謝する!」と云うのではなく、共に暴利を貪っていた臙魅臙魅の仲間たちに陳謝してまわると

云うこと:では無いかと耳を疑った。

リスク・カウンセラーの業務の中で、事業再生の一環として「M&A」の実行法があり、これからは多くの専門家とチームを組んで、企業再生の業務にたずさわっていきたくと考えている。

リスク・カウンセラーとして多くの消えていく企業の社長と接してきた。その時「M&A」で買収される側の社長から相談を受けたことがあった。

その社長の相談は、買収する側の会社あまりにも高慢な態度に屈辱的な感情を抱き、何日も悩んだ末、M&Aの契約を反故にしたい!というものだった。

経営者には寿命がある。何の対策も立てておかなければ、その会社にも寿命がある。会社が培ってきた技術や実績は会社がなくならねばすべて消える。

会社が存続すれば、従業員も事業実績も承継することが出来る...かも知れない。社長に大切なことは、事業承継の決断は、事業が盛況なときにこそしておくべきで、いい時にはそのことを忘れてしまいがちになるのは残念だ。

中小企業の経営者が忘れてはならないことは、自分が継続して経営できないければ、とことんダメになるまで自分が頑張つて、あげく果ては放棄する...なんて云うことは愚かなことだといえる。

成功していない「M&A」は決して屈辱的なM&Aをしてはいけない。双方の経営者が心が通う員にとってもハッピーな結果となることは間違いない。

臙魅臙魅の金儲け中心の経営者によるM&Aは、多くの犠牲者と遺恨を残すことにも成りかねない。

# R.F.C Information & Report

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

2006.06.25 Vol.1.2006-06

### 【つよごと感時記】

梅雨始めの雨が降り、雨上がりにカッパを脱ぎ、白鳥山神社では恒例の「あじさい祭り」が開催されている。雨に濡れた紫陽花は一番つづくしい。白、水色、赤、紫色とどろどろの花が咲き集まる人の目を惹きつけてくれる。

葉からこぼれ落ちた水滴が気になり足下を見ると、紫陽花の根元から大きなカタツムリが長い触手をゆらゆらゆらりと揺らげながら、たおやかなまじりの流線美のカタツムリが歩いている。

あつ、週間も経てば東京でも梅雨が明け、やがて梅雨を浴びながら、高い樺の木陰を探しながら歩くことになるのだろうか。(細野)



文京区民センター前に作られた小さな花壇には、細くて長い多数の雄しべの「ビヨウヤナギ」が満開に咲いていました。一見ヤナギの葉に似ているところからその名がつけられたようです。漢名は金糸桃。

### ●恩借りの限界を納得し…破産を決意する

今に始まったことではないのだが、数ヶ月毎に資金繰りがきつくなり、資金繰りがきつくなると親戚や友人に頼んで何とか切り抜けてきた。

前回、拜み倒すようにして借りた時だって、まったく返済の当てもないのに借りられさえすれば後は何とかなんとしか思わなかった。でっち上げの資金繰り表を見せて何とか切り抜けてきた。

しかし、今度はばかりは今までとは状況が違うようだ。決済日まであと10日しかない。親戚や友人から借りたくても、今までに借りているお金も返済できていないのに、それでも貸して欲しいと頼みに行くなんて到底出来ない。

手元には返済に必要な資金の2割しかなく、8割を外部から調達しなければならぬ状況だ。例え今月を切り抜けたとしても、来月の資金繰りの状況もほぼ今月と同じ状況ではお金を貸してくれた人に迷惑をかけるばかりだ。

リスク・カウンセラーは、資料を基にして3ヶ月、6ヶ月、1年、3年の事業計画を作成するのだが、肝心の売上の見込みを立てようにも、すべて担当者に任せきりで社長は実情を全く掴んでいない有様であった。

時間が無い。徹夜で資料を作り徹底的に社長と話しをする。社長の本音の気持ちを聴くことが一番大切なことだ。親戚や友人などから「恩借り」の方法でしか資金調達が出来なくなった現況を冷静に分析して、社長の決断を待つことにした。

翌日、社長は破産することを決断した。手元にあった現金を持って弁護士の事務所に行った。直近の財務資料、試算表、財産一覧表、債権者リストなどを提示し破産に至るまでの顛末を説明、委任状への署名を済ませて必要な現金を渡して手続を終えホッとする。

### ●国破れて山河あり…城春にして草木深し

Xデーが来た。会社の入り口には、B4の用紙に弁護士の署名が入った「通知書」を張り出す。以下はその文面だ。

#### 通知書

株式会社〇〇〇〇は債務超過により支払い不能に至り、当職が破産申立手続きを受任いたしました。

今後は、いかなる理由たりとも、みだりに建物内への侵入、若しくは什器備品及び家財道具等を持ち去ることを固く禁じます。ご用のあります方は、当職宛ご連絡下さい。

平成〇〇年〇月〇〇日  
〇〇県〇〇市〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号  
電話番号 〇〇〇 (〇〇〇) 〇〇〇〇  
ファクス 〇〇〇 (〇〇〇) 〇〇〇〇

株式会社〇〇〇〇・代理人 弁護士◆◆◆◆  
関係者各位殿

朝礼で社員を集め、破産の申立てをしたことを説明し社長は社員に対して謝罪をした。社長がXデーに行く最低限の儀式だ。経理担当者からは雇用保険や社会保険などの手続の説明と関係書類を配布する。この日から社員は債権者の立場に立つことを社長には説明しておく。

債権者となる取引先に対して予め弁護士が受任通知書が送達されるようにしていただいたので、取引先の数社が事務所に来ただけで、まったく混乱は起きなかった。

取引先との最低限の業務の引き継ぎを行い、社員たちは再就職先を探しに活動が始まる。職種や社員の人柄などによっても違いますが、結構、債権者である取引先からお誘いが来たりする場面もあるくらいだ。むしろ、社長は自分の心配をしておく方がいいですよ…とあらかじめ話しておく。

## リスク・カウンセラー奮闘記・25

間もなく毎日のように内容証明郵便が送達されてくる。『期限の利益の喪失』に関する書類や、『債権差押えの通知』とか…、郵便物はすべて弁護士事務所へ持参して状況報告をすることになる。

会社が倒産すると、リース会社がリース物件を引き上げに来る。物品受領書と引き替えに持ち帰る現場に立ち合わなければならない。

その他の什器備品類はほとんどがゴミになってしまう。机、椅子、ロッカー、パーテーション、減価償却済みのコピー機、古いバージョンのパソコン、資料のファイル等々、換価できるものはほとんど見あたらない。固定資産台帳に載っている本来なければいけない備品までもが見あたらない…。これはマズイ。

以前は、残置物を引き取る業者に連絡すると幾ばくかの金銭をおいてゴミまでも持ち帰ってくれたが、昨今ではそうはいかない。昨今は有償となりお金を払わないと持ち帰ってくれない。リース物件の事務機器が撤去された事務所はファイルと紙ゴミの山になる。

担当の事務員が残務事務整理をしている姿を横目に見ながら、社長は戦が終わった廃墟となった戦場のような状態の事務所の中を彷徨うように歩き回っている。

どうしても…机の中、ロッカー、ファイルの中味を開いてみたくなる。床に散乱している事務用品類や書類などを拾い集めながら歩き回る。片づけるでもなく…小さなペンを見つけてポケットにしまったり…。

社長は窓辺に立ち、外の景色に目をやる。…視界に入る車両や人々の動きは昨日までと何にも変わらない。むしろ以前より生き生きしているようにさえ見えてくる。あの時の事務所の中の活況は何だったんだろう。もう少し頑張っていたら…。社長にとって悔やんで止まないひと時でもある。そんな社長の姿を見たときは、見ないそぶりを心がけている。

社長が拾い集める資料や小物は…大したものではない。でも…社長には思い出がある。事業が拡大するたびに古い物は廃棄し新しい什器を増やしてきたが、創立以来持ち続けていた思い出の詰まった小物だったりする。でも、そんな時間は大切にしたいと思っている。

こんな時に社長に云うのです。「後になってお金で買えるものに執着することは止めて、お金で買えるものは全て手放すようにしたほうがいいですよ…」と。

最後に、管財人に引き渡す保存書類を保管倉庫に運び、残置物がすべて持ち去られ空っぽになった事務所を社長に見せる時がくる。その時こそ、社長が過去と決別し新しい一歩を踏み出す為の最も大切な瞬間であると感じている。



リスクカウンセラーのブログを書き始めました。  
もっと多くの情報をお届けできると思います。  
<http://risk-counselor.seesaa.net/>



「オクナセルラータ」(南アフリカ産)という聞き慣れない名前ですが、5月中旬に黄色い花が咲き、6月には実がつき、やがて実は黒くなる。実がミッキーマウスに似たようになるので「ミッキーマウスツリー」の名がついた。

